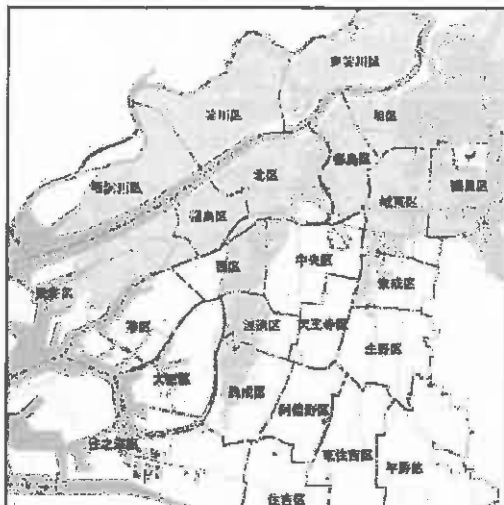


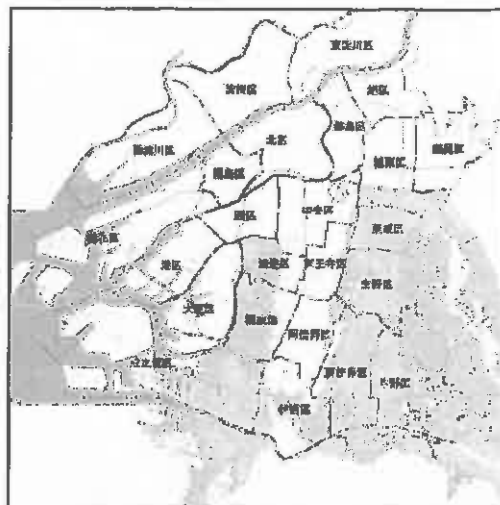
浸水の深さ

0.1m未満
0.1～0.3m
0.3～0.5m
0.5～1.0m
1.0～2.0m
2.0～3.0m
3.0～4.0m
4.0～5.5m
5.5～7.5m
7.5～10.0m

① 淀川が氾濫した場合



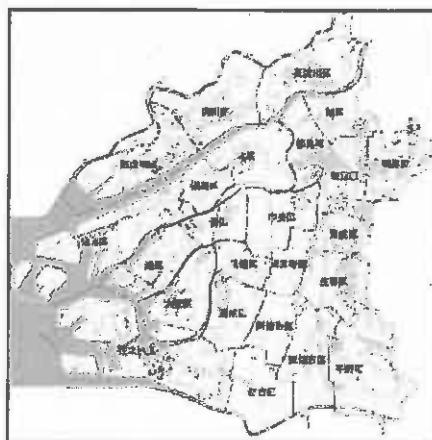
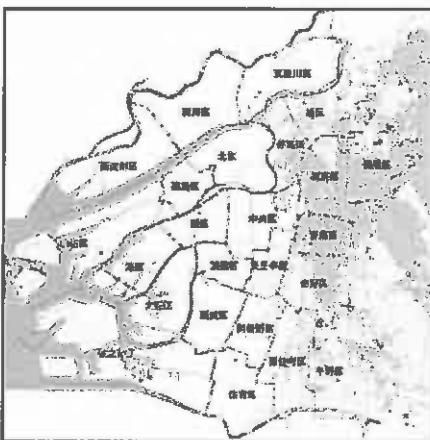
② 大和川・東除川が氾濫した場合



③ 神崎川・安威川が氾濫した場合



④ 寝屋川・第二寝屋川・平野川・平野川分水路が氾濫した場合



詳しくは、危機管理室ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/> 「津波・水害から命を守るために」水害ハザードマップ」をご覧ください。
「水害ハザードマップ」は、大阪市危機管理室（市役所5階）または区役所で配布しています。

都市型水害の特徴

大都市ではアスファルトで固められた部分が多く、大量の雨水が一気に下水道へ流れ込み、排水の処理能力を超えマンホールや側溝から地上にあふれ、地下街や地下室を襲う災害も起こっています。

地下にいるときは、安全と思い込まず、雨の降り方や降っている時間に気をつけ、外で何が起きているのかを把握するようにしましょう。

階段を流れ落ちる水の勢いは強く、地上への避難は困難になりますので、地下への浸水が予想されるときには早めに避難しましょう。



風と雨の強さ

風の強さと想定される被害

平均風速 (m/秒) 予報用語	想定される被害
10 以上～ 15 未満 やや強い風	傘がさせない
15 以上～ 20 未満 強い風	風に向かって歩くことができない
20 以上～ 25 未満 非常に強い風	車の運転を続けるのは危険な状態となる
25 以上～ 30 未満 非常に強い風	樹木が倒れ始める 瓦が飛び始める
30 以上～ 猛烈な風	屋根が飛ばされるなど、 木造住宅が壊れ始める



雨の強さと想定される被害

1 時間雨量 (mm) 予報用語	想定される被害
10 以上～ 20 未満 やや強い雨	長く続くときは注意が必要
20 以上～ 30 未満 強い雨	側溝などから水があふれることがある
30 以上～ 50 未満 激しい雨	マンホールから水があふれることがある
50 以上～ 80 未満 非常に激しい雨	地下街に雨水が流れ込むことがある
80 以上～ 猛烈な雨	大規模な災害が発生するおそれ強い



大阪市からの避難情報について

大阪市では、防災スピーカーや携帯電話・スマートフォンへの緊急速報メールなどにより、必要な場合に避難情報を発令します。

	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示(緊急)
発令時の状況	◆人的被害の発生する可能性が高まった状況	◆人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	◆前兆現象の発生など人的被害の発生する危険性が非常に高い状況 ◆人的被害の発生した状況
皆さんに していただく 行動	◆避難行動要支援者や避難行動に時間を要する住民は、避難行動を開始（避難支援者は支援行動を開始）	◆通常の避難行動ができる住民等は、避難所等への避難を開始	◆すべての住民等は、避難を直ちに完了

避難情報の伝達手段

・防災スピーカー（防災行政無線） ・緊急速報メール ・ホームページ ・ツイッター ・おおさか防災ネット ・テレビ・ラジオ
・地元組織への連絡 ・広報車 など

（注）防災スピーカーについては、避難勧告・避難指示（緊急）のみ使用します。

防災スピーカーのサイレン（警報音）パターン

市域に設置している防災スピーカーでは、緊急事態の種類ごとに定めたサイレン（警報音）パターンにより、警報や避難勧告、避難指示（緊急）などの放送を行います。

緊急事態の種類	サイレン（警報音）パターン	とっていただく行動
テロやゲリラなど武力攻撃に関する警報	サイレン 14 秒吹鳴	屋内に入り、テレビやラジオをつけ、詳しい状況を確認してください。
弾道ミサイル攻撃に関する警報	サイレン 14 秒吹鳴	屋外にいる場合は近くの頑丈な建物や地下（地下街や地下駅舎などの地下施設）に避難してください。
大津波警報	サイレン 3 秒吹鳴 2 秒休止 サイレン 3 秒吹鳴 2 秒休止 サイレン 3 秒吹鳴	海岸や河川から離れ、津波避難ビルなど丈夫な建物の 3 階以上に避難してください。
津波警報	サイレン 5 秒吹鳴 6 秒休止 サイレン 5 秒吹鳴	
避難指示	サイレン 15 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 15 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 15 秒吹鳴	お近くの災害時避難所など、安全な場所に避難してください。 ※河川の氾濫など、避難所に避難するより近くの 3 階以上の建物に避難することの方が安全な場合があります。普段から身を守る行動について確認しておきましょう。
避難勧告	サイレン 10 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 10 秒吹鳴 10 秒休止 サイレン 10 秒吹鳴	
緊急地震速報（震度 5 弱以上）	緊急地震速報チャイム音	ただちに身を守る適切な行動をとりましょう。

特別警報について

特別警報は、「東日本大震災」や「伊勢湾台風」などに匹敵する大規模な災害が予想される場合に気象庁から発表されます。

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨などが予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに命を守る行動をとってください。

非常事態

大阪市からの避難勧告・避難指示に従いただちに避難所に避難！

外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動！

「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

Point

冷静な判断が必要です。周囲の状況に応じた行動を！
浸水の中の避難は非常に危険！

特別警報の発表基準

◆ 気象

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

◆ 津波・火山・地震

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)※を特別警報に位置づける)
地震 (地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

※噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

(「特別警報の発表基準について」(気象庁ホームページより))

風水害から身を守るために

普段から備えておく

- ・水害ハザードマップで、自分の住んでいる場所がどの程度浸水するおそれがあるのか把握しましょう。
- ・周りより低い場所など、危険な箇所を把握しましょう。
- ・避難場所や避難ルートを確かめましょう。
- ・側溝や排水溝などにごみや落ち葉は溜まっていないかなど、家のまわりの点検をしましょう。
- ・浸水のおそれがある地域や低い土地に住んでいる方は、土のうなどの準備をしておきましょう。

気象情報に注意する

テレビやラジオ、電話（１７７）、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報などの情報に注意しましょう。

降雨情報

大阪市のホームページ

(<http://www.ame.city.osaka.lg.jp/pweb/>) で、市内の雨の量などの情報がご覧いただけます。



むやみに外出しない

台風が接近しているときや豪雨のときは、外出しないようにしましょう。やむを得ず外出する際は、気象情報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないようにしましょう。特に堤防・海辺・河川への見物は事故のもとです。

風が強いとき

路上にいるとき

強風で瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりします。無理して歩かず近くの頑丈な建物に避難しましょう。



屋内にいるとき

風圧や飛来物で窓ガラスが割れ、破片が吹き込む危険があります。風が強いうちは窓に近づかないようにしましょう。

海辺にいるとき

海への転落や高波に巻き込まれる危険があります。また、高潮の恐れもあるので、速やかに海辺から離れましょう。

大雨のとき

川边にいるとき

上流の豪雨により、川が急に増水する危険があります。川などに近づかないようにしましょう。避難情報が出れば、速やかに建物の３階以上へ避難しましょう。なお、強風や豪雨の時には、防災スピーカーからの避難情報が聞こえないこともあるので、十分に注意しましょう。

車を運転しているとき

視界が悪く、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもありますので、運転は控えましょう。また、アンダーパスなど道路冠水のおそれがある場所を通らないようにしましょう。

路上にいるとき

浸水してきたら、近くの建物の３階以上へ避難しましょう。その際は、なるべく階段を使って上の階へ行きましょう。また、水路・側溝は水量が増えて危険ですので、近づかないようにしましょう。

早めに避難しましょう

- ・「まだ大丈夫」「自分だけは大丈夫」と思い込まず、早めに避難することが命を守るポイントです。
- ・大阪市から避難情報が出れば、ただちに必要な避難行動をとってください。

風水害時に避難するときは

河川氾濫の避難勧告のときの避難の考え方

- ・ 1、2 階建ての木造住宅やマンションの低層階など浸水のおそれがある階にお住まいの方
⇒災害時避難所や近くの高い建物に避難
- ・ マンションの3階以上など、浸水のおそれがない階にお住まいの方
⇒自宅の安全な場所で待機し、安全を確保

動きやすく安全な格好で避難

ヘルメットや防災頭巾などで風で飛ばされてくるものから頭を保護し、すべりにくい靴を履きましょう。裸足や長靴は危険です。荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。

浸水している状況では近くの高い建物に避難

既に浸水しているなかの避難は非常に危険です。まっ暗闇ですでに浸水している場合など、避難所へ行くのが困難な場合は、近くの3階以上の建物に一時避難しましょう。

やむを得ず浸水のなかを避難するときの注意点

深さに注意

歩行可能な水の深さは、男性で70cm、女性で50cmが目安です。ただし、くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。

足元に注意

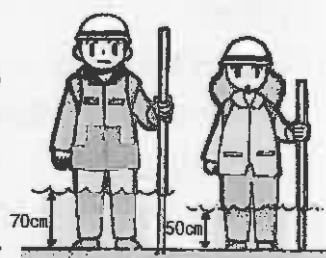
水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩きましょう。

一人で行動しない

隣近所に声をかけて集団で避難しましょう。はぐれないように体の一部をロープで結ぶとよいでしょう。

子どもや高齢者などへの配慮

高齢者や病人などは背負い、子どもには浮き輪をつけて安全を確保しましょう。

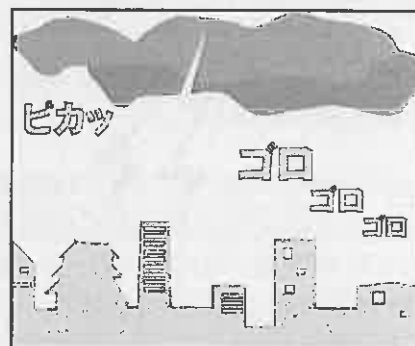


雷から身を守るには

雷鳴が聞こえるなど雷雲が近づく様子があるときは、落雷が差し迫っています。雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グランドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。

鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建築の内部も基本的に安全ですが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。

(国土交通省メールマガジンより引用)



第3章

地震・風水害に対する日ごろの備え



阪神・淡路大震災の死因は、家屋の倒壊や家具の転倒などによる圧迫死が大半を占めていました。そうならないためには、あなたの家の内外を点検し、いざというときのために備えることがとても大切です。

阪神・淡路大震災での死亡原因

圧迫死 88%

家屋倒壊 12%

家屋倒壊や家具の転倒などによる圧迫死が大半を占めています！

消防庁「消防白書」より

家族で防災会議を開こう

地震の被害を小さくするためには日頃からの備えが大切です。身の回りの安全について家族で考えましょう。

1 家族一人ひとりの役割を決める

家族で話し合っ、災害発生時の役割を決めておきましょう。

- ☐ 火を消す
- ☐ ガスの元栓を閉める
- ☐ 子どもやお年寄りの安全を確認する
- ☐ 危険物を安全なところへ移す
- ☐ 消火器、バケツなどを準備する
- ☐ 電気器具のコンセントを抜く、ブレーカーを切る
- ☐ ラジオ・テレビなどで情報を確認する
- ☐ 出入口を確保する
- ☐ 非常持ち出し品を確認する
- ☐ すぐに戻ってこられない家族へ伝言を書いておく
- ☐ 家の前に先行や連絡先を書いた紙を貼っておく

2 危険個所をチェックする

家の内外に危険個所がないかどうかチェックしましょう。危ない場所は、修理や補強について話し合しましょう。



3 「非常持ち出し品」と「非常備蓄品」をチェックする

必要な物品がそろっているか確認します。また、定期的に保存状態や消費期限を点検し、必要なら交換しましょう。(右ページ参照)

4 防災用具をチェックする

消火器や救急箱を確認しましょう。消火器の使い方や応急手当の方法(28～30ページ参照)を覚えておきましょう。

5 緊急連絡カードを用意する

家族の避難場所や集まる場所、家族の連絡方法などを話し合い、決めたことは緊急連絡カードとして記入したものを携帯するようにしましょう。(巻末参照)



6 わが家の防災マップをつくろう

家族で避難場所や避難路などを確認し、わが家の防災マップを作成しましょう。(31ページ参照)

あなたの家の耐震性能はだいじょうぶですか？

あなたは家屋の耐震診断、耐震改修などの対策をしましたか？特に昭和56年(1981年)5月31日

■ 建設時期と地震被害状況(JR三ノ宮駅近辺における全数調査)

昭和56年(1981年)以前の建築

大破・倒壊	中破・小破	無被害・軽微
29%	37%	34%

昭和57年(1982年)以降の建築

大破・倒壊	中破・小破	無被害・軽微
9%	16%	75%

(「平成7年阪神・淡路大震災調査委員会中間報告」(建設省)に基づき作成)

●非常持ち出し品

チェックしよう!

基本品目32点

※大人2人分の目安

☐ 非常持ち出し袋 1個	☐ 救急袋 1枚	☐ サバイバルブランケット 2枚
☐ 缶入り乾パン(110g) 2個	☐ 毛抜き※ 1本	☐ 簡易トイレ 2枚~
☐ 飲料水(500mlペットボトル) 6本	☐ 消毒液※ 1本	☐ タオル 4枚~
☐ 懐中電灯 2個	☐ 脱脂綿※ 適当量	☐ ポリ袋 10枚
☐ ローソク 2本	☐ ガーゼ(滅菌)※ 2枚	☐ トイレットペーパー 1ロール
☐ ライター 2個	☐ ばんそうこう※ 10枚~	☐ ウェットティッシュ 2個
☐ 携帯ラジオ 1台	☐ 包帯※ 2巻	☐ 現金(公衆電話用の小銭) 約50枚
☐ 十徳ナイフ 1本	☐ 三角巾※ 2枚	☐ ガムテープ(布製) 1個
☐ 軍手・手袋 2組	☐ マスク※ 2枚	☐ 油性マジック(太) 1本
☐ ロープ 5m~ 1本	☐ 常備薬・持病薬など※ 適当量	☐ 筆記用具 1セット
	☐ レジャーシート 1枚	☐ 生理用品

※は救急袋の中に入れておく。

個人や家庭の事情にあわせ備えを検討するもの

必需品・貴重品類

- ☐ 車や家の予備鍵
- ☐ 健康保険証(写)
- ☐ 予備メガネ・コンタクトレンズ等
- ☐ 運転免許証(写)
- ☐ 預金通帳(写)
- ☐ パスポート・外国人登録証(写)
- ☐ 支援プラン(巻末)

赤ちゃん用品

- ☐ 粉ミルク
- ☐ スプーン
- ☐ 紙おむつ
- ☐ ベビーカー
- ☐ 哺乳瓶
- ☐ 洗淨綿
- ☐ 母子手帳
- ☐ おんぶひも
- ☐ おやつ
- ☐ バスタオル
- ☐ 玩具
- ☐ 毛布
- ☐ 離乳食
- ☐ ガーゼ
- ☐ 着替え

高齢者用品

- ☐ 高齢者手帳
- ☐ 予備メガネ
- ☐ おむつ
- ☐ 看護用品
- ☐ 着替え
- ☐ 持病薬

リュックサックなど両手が自由に動かせるものに入れておき、いつでもすぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

家族構成を考え必要最小限に絞り込み、一度背負ってみましょう。また、少なくとも年に一度は点検しましょう。

●家庭に備えておくもの

非常備蓄品

- 飲料
 - ☐ 飲料水(2Lペットボトル)
 - ☐ 非常用給水袋
- 衣類
 - ☐ 上着
 - ☐ 下着
 - ☐ 靴下
- 食料
 - ☐ アルファ米
 - ☐ 乾パン
 - ☐ パン缶
 - ☐ インスタントラーメン
 - ☐ 缶詰類
 - ☐ レトルト食品
 - ☐ スープ
 - ☐ 味噌汁
 - ☐ ビスケット
 - ☐ キャンディ
 - ☐ チョコレート
 - ☐ 塩
- 生活用品
 - ☐ タオル
 - ☐ バスタオル
 - ☐ 毛布
 - ☐ 雨具
 - ☐ 予備電池
 - ☐ 卓上コンロ
 - ☐ ガスボンベ
 - ☐ 固形燃料
 - ☐ 鍋
 - ☐ ラップ
 - ☐ アルミホイル
- ☐ やかん
 - ☐ 皿(紙・ステンレスなど)
 - ☐ コップ(紙・ステンレスなど)
 - ☐ わりばし
 - ☐ スプーン
 - ☐ フォーク
 - ☐ 歯ブラシ
 - ☐ 石鹸
 - ☐ ドライシャンプー
 - ☐ 携帯電話の充電器
 - ☐ 新聞紙
 - ☐ 使い捨てカイロ
 - ☐ 安全ピン
- その他
 - ☐ ブルーシート
 - ☐ ガムテープ(布製)



※あくまで目安です。自分で持って避難できる量にしましょう。

避難後に少し余裕がでてから安全を確認して自宅へ戻り持ち出したり、自宅で避難生活を送るうえで必要なもので、救援物資が届くまで1週間程度、自足するつもりで備えましょう。



以前の旧耐震基準で建てられた建物は、地震に対して強度がどの程度か調べる事が重要です。

「耐震診断」、「耐震改修」を応援します

お住まいに不安がある場合は専門家に診断を依頼し、強度が不足していれば耐震改修を行う必要があります。

大阪市には、震災に強いまちづくりをめざし、耐震診断・改修費用の一部を補助する制度があります。

詳しくは、大阪市都市整備局 耐震・密集市街地整備受付窓口(TEL6882-7053 FAX6882-0877)にお問い合わせください。

あなたの家の安全対策

定期的に家の中や周囲をチェックしておきましょう。
台風の場合などで、風雨が強まってから屋根などの補強



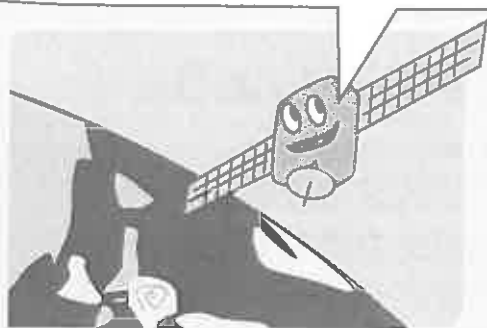
はだいじょうぶですか？

をするのは非常に危険です。絶対にやめましょう。



もしものときに備えて

わからない事があったときはこちらへアクセスしてね。



大阪市危機管理室

TEL: 6208-7388 FAX: 6202-3776
<http://www.city.osaka.lg.jp/kikikanrishitsu/>

危機管理室ホームページでは、地震や風水害に対する日ごろからの備えや避難場所などを紹介しているほか、災害時には被害状況や対応状況などの緊急情報を提供します。各区の「防災マップ」も掲載しています。



大阪市消防局

<http://www.city.osaka.lg.jp/shobo/>
地震、火災発生などの非常時の対応や、救急に関する情報など。
キッズ用ページ（キッズルーム）もあります。



各区役所

地域ごとの防災マップ作成や出前講座を行うなど、特色ある取り組みがなされています。区のホームページなどをご覧ください。

大阪市建設局（降雨情報）

<http://www.ame.city.osaka.lg.jp/pweb/>
市内の雨の量などの情報がご覧いただけます。



おおさか防災ネット

<http://www.osaka-bousai.net/osaka/>

地震・津波・台風情報や気象に関する注意報・警報、府内に発表される避難勧告や指示情報、ライフライン情報へのリンクなど幅広い防災情報を提供しています。また、携帯メールアドレスを「防災情報メール」に登録しておくと、気象・地震・津波情報などがメールで配信されます。登録方法／解除したい場合も同じ方法です。
[touroku@osaka-bousai.net]へ空メールを送信すると登録（解除）用メールが送られてきます。バーコードリーダー機能付き携帯ならQRコードを読み取り送信してください。



総務省消防庁

<http://www.fdma.go.jp/>

e-カレッジ

<http://www.e-college.fdma.go.jp/>

さまざまなコースやテーマごとに学習でき、子ども向けのコースもあります。

消防防災博物館

<http://www.bousaihaku.com/>

いざというときの情報から専門的知識まで満載のインターネット上のミュージアム。

内閣府防災情報

<http://www.bousai.go.jp/>

国内各地の災害情報や国の各種施策を掲載。

気象庁

<http://www.jma.go.jp/jma/>

防災気象情報・気象等の知識について掲載。

国土交通省 防災情報提供センター

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

川の防災情報ほか国土交通省の保有する防災情報を提供。

地震調査研究推進本部（文部科学省関連）

<http://www.jishin.go.jp/main/>

毎月の地震活動や発生する確率などの評価を調査。
・（子ども向け）「地球キッズ探検隊」地震の謎にせまる。
<http://www.jishin.go.jp/kids/>

財務省 地震保険のページ

http://www.mof.go.jp/financial_system/earthquake_insurance/jisin.htm

地震保険の内容や保険料について掲載しています。

大阪市ボランティア・市民活動センター

<http://www.osakacity-vnet.or.jp/>

日本赤十字社大阪府支部

<http://www.osaka.jrc.or.jp/>

「知る」「学ぶ」

行ってみよう!

大阪市立阿倍野防災センター

大阪市阿倍野区阿倍野筋 3-13-23 あべのフォルサ3階
TEL: 6643-1031 FAX: 6643-1040
<http://www.abeno-bosai-c.city.osaka.jp/>

地震発生直後の街並みなどを体感し、消火・避難・救助といった一連の行動をリアルに体験することができる施設です。あなた自身や家族を守り、街を守り、人を助けることができる「体験」を通じて災害について考え、学んでみませんか。



- ご利用：無料
- 開館時間：10時から18時
- 休館日：水曜日、毎月最終木曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12/28～1/4）

津波・高潮ステーション

大阪市西区江之子島2-1-64
TEL: 6541-7799 FAX: 6541-7760
<http://www.pref.osaka.lg.jp/nishiosaka/tsunami/>

かつて大阪を襲った高潮や近い将来必ず大阪を襲うと言われていた東南海・南海地震とともに、地震、津波発生時の対応などを学べる広く開かれた施設です。



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL: 078-262-5050
FAX: 078-262-5056
<http://www.dri.ne.jp/>
阪神・淡路大震災の経験と教訓を映像や実物資料展示などにより後世に伝え、防災のあり方について学ぶことのできる施設。資料室以外是有料。



電話が使えないとき・・・

大規模な災害時には、一般電話や携帯電話の通話が制限されます。

NTTの災害伝言ダイヤルや携帯電話の災害伝言板を活用して、家族や友人に連絡しましょう。

① 災害伝言ダイヤル171

NTT西日本（一般電話：音声）

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を登録・再生できます。

② 災害伝言板

安否情報を登録すると、家族や友人が携帯番号やパソコンから確認できます。詳しくは、各社のホームページなどをご覧ください。



携帯電話 災害伝言板

<NTTドコモ>

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

<a u>

<http://dengon.ezweb.ne.jp/>

<ソフトバンクモバイル>

<http://dengon.softbank.ne.jp/>

<ワイモバイル>

<http://dengon.emnet.ne.jp/>

※ワイモバイル電話からは、災害用伝言板アプリからアクセスできます。

パソコン（テキスト、音声、画像）

<NTT西日本>

「災害用ブロードバンド伝言板（web171）」

<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>

※これらのサービスは、毎月1日と15日、正月三が日（1月1日～1月3日）、防災週間（8月30日～9月5日）、防災とボランティア週間（1月15日～1月21日）に体験利用ができますので、災害発生に備えて利用方法を事前に覚えておきましょう。

災害情報をお知らせします

緊急地震速報

気象庁では、強い揺れが到達する前に地震の発生をお知らせする、緊急地震速報を提供しています。最大震度5弱以上と推定した地震の際に、震度4以上の地域へ強い揺れが来る数秒～数十秒前にお知らせするものです。テレビで「まもなく強い揺れがきます」などというテロップが流れるなどの予告が行われますので、身を守るための適切な行動がすばやくできるように日頃から考えておきましょう。

緊急速報メール

大阪市では携帯電話各社の緊急速報メールサービスを利用して、災害発生時における避難勧告や指示などの緊急情報を大阪市内の携帯電話等に一齐配信します。

- 受信料は無料です。
- 受信すると専用着信音が流れ、内容がポップアップ表示されます。
- 一時的にエリア内にいる来阪者も情報が受信できます。



※携帯電話の機種により受信できない場合や、あらかじめ受信設定が必要な場合があります。

※緊急速報メール受信可能機種及び受信するための設定方法については各社のホームページをご覧ください。

<NTTドコモ> <https://www.nttdocomo.co.jp/service/safety/aremail/>

<a u> <http://www.au.kddi.com/mobile/anti-disaster/kinkyu-sokuho/>

<ソフトバンクモバイル> http://www.softbank.jp/mobile/service/urgent_news/

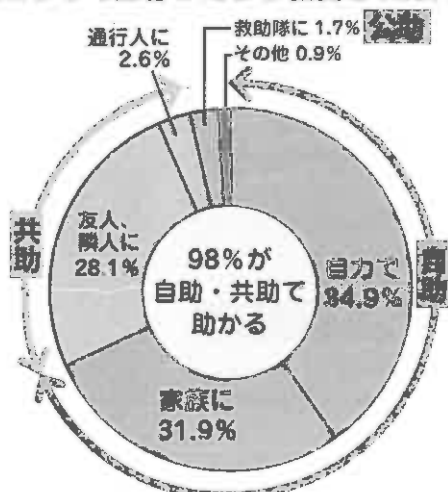
第4章

地域での防災活動に参加しましょう

自助・共助が命を救う！

阪神・淡路大震災で生き埋めになった人たちが誰によって救出されたか？

阪神・淡路大震災では、生き埋めになり救助された人の98%が自助と共助で助けられました。一方、公的機関によって生存したまま救出された人はわずか1.7%という記録が残っています。



(社)日本防災学会：「兵庫県南部地震における防災に関する調査報告書」より



災害被害を軽減するには、これらの連携が重要です。

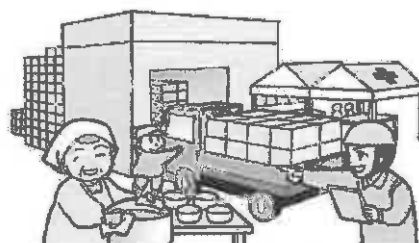
自助：自分（家族）の命を自分（家族）で守ること

共助：地域の皆さんで互いに助け合うこと

公助：国や市の行政機関が対策を行うこと

あなたの持っている力を活かそう

町内には、いろいろな技術や道具を持った人、まちのことを熟知している人など様々な人たちがいます。災害時には、そういった技術や道具や知恵などが役に立ちます。あなたもきっと何かの力があるはずです。いざという時にできることをご近所で話し合っておきましょう。また、ジャッキ、パール、フォークリフト、リヤカーや建設機械などを持っている事業所が近所があれば、災害時に提供してもらえるよう事前に働きかけましょう。



<労力や時間を提供>

在宅被災者・避難所・地域での作業で、清掃・運搬・配給・炊き出しなどの労力の提供



<物資や資機材の提供>

救援物資、救助・復旧用資機材の提供



<場所を提供>

一時避難場所、ボランティア休息所、物資倉庫、駐車場などの提供



<技術や知恵を提供>

専門知識、資機材の使い方など、ノウハウの提供



<情報通信ができる>

インターネットなど、必要な情報のやりとり



<その他>

レクリエーションの指導、子どもの世話など

